

主 題：神のご性質にあずかる者となる

聖書箇所：ペテロの手紙第二 1章5－8節

神は私たちの信仰が成長することを望んでおられます。「靈的に成長しなさい」、これは神の命令です。いつまでも幼子であってはならないと言われます。主の恵みによって救われた私たちが成長しようとするのは、確かにそれは神が望んでおられることだからですが、同時に、信仰が成長することによって、私たちの喜びがますます満ち溢れたものになって行くからです。信仰が成長すれば、私たちは様々な誘惑に打ち勝って行くことができます。そして、信仰が成長することは本当に救われている人の特徴です。生まれ変わったのです。主に喜ばれる者になって行きたい、主の栄光を現わす者になって行きたい、そのような新しい思いを神は私たちに与えてくださったのです。だから私たちは変わろうとするのです。そして、私たちが成長することによっていろいろなことに悩むことが少なくなって来ます。喜びをもって歩んで行くことができます。人間関係においても悩みに勝利することができます。人を愛することができるように神は変えていってくださいなのです。様々な間違った教えが入り込んでくる今、この世にあって、そのようなことから私たちは守られ、決して惑わされることがないのです。そして、私たちの信仰が成長することによって、落ち込むことがなくなるのです。

私たちの信仰の成長を神は望んでおられ、それが可能であることを教えてくださいました。Ⅱペテロ3：18をすでに学びました(5/16)が、「**私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。**」と、ペテロはここに靈的成長に関する二つの方向を示しています。私たちがどのように歩んで行くべきなのか、どのような方向を向いて歩むべきか、何を目指して歩むべきかを教えています。私たちクリスチャンは、

- 1) 恵みにおいて成長する：これは神に依存した信仰生活です。神の力によって歩んで行こうとします。
- 2) 知識において成長する：神の正しい知識を得て歩んで行くことです。

そして、ペテロはこの靈的成長のカギについて別の観点から教えて行こうとします。

☆靈的成長のカギ

今日の箇所から、ペテロは二つのことを教えます。一つはあなたの靈的成長には神の働きが必要であるということ、もう一つは、あなたの靈的成長にはあなたの働きがいるということです。

1. 神の働き(神の助け)

私たちがますます靈的に成長するように神は助けてくださるのです。先のⅠペテロ3：18の最後に「**このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。**」とあります。信仰の成長は神のみわざであること、神が私たちの信仰を成長させてくださることをペテロは分かっていたからです。パウロもまたそのことを知っていました。Ⅰコリント3：6-7でこのように言っています。「**私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。：7.それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。**」と。私たちの成長を神は望んでおられ、神はそれを助けてくださるのです。わたしたちの日々の生活にはいろいろなことが訪れますが、そのとき、みことばに照らして考えるとき、神の約束が教えていることに気がきます。神は私たちの益のためにすべてのことをなしてくださるという約束です。困難なこと、難しい問題も、神が私たちを愛するゆえに、私たちの信仰の成長のために、神があえて私たちに与えておられることだと、神の真理を知るのです。だれしも試練は望まないことですが、私たちが試練を正しく受け止めるなら、そこから大切なことを教えられるのです。

私たちが神に信頼して歩むとき、すべてのことを神によって解決しようとしています。パウロは自分の様々な問題に対してこのように言っています。Ⅱコリント12：9-10「**しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」**と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。：10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」、パウロは自分がいかに弱者であるか、常に神の力、知恵が必要であることを悟っていました。神の助けを求めると、神はそれを望んでおられます。そのために、神は私たちにいろいろな難題を与えられるのです。そうしないと、私たちは神を必要としないからです。問題がなければ、私たちは自分でやろうとします。しかし、自分にできないような大きな問題に出会うと初めて私たちは神に助けを求めるのです。私たちの信仰の成長に必要なことは、成長させてくださる神の力と知恵を常に信頼して、それに頼りながら生きて行くことです。神の力、知恵、助けが私に必要なのですと、神に求めることです。神が成長させてくださるのです。

2. 人の働き・責任

ペテロは1：5からこのように言っています。「**こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、：6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、：7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。**」。ここでペテロが教えることは、私たちの信仰が成長するために、実は私たちには大きな責任があるのだということです。「あなたがたは、あらゆる努力をして」とありますが、これは大変興味深いことばです。原語を見ると、初めに名詞があつて次に形容詞、そして、動詞と続きます。「熱心、真剣、勤勉」という名詞、次に「あらゆる」という形容詞、そして、「用いて」という動詞がきています。ですから、「あらゆる努力をして」と訳されているのですが、もう少し補足するなら、「あらゆる熱心さ、真剣さを用いるように」となります。これがペテロが最初に読者に勧めたことです。パウロはローマ12：11でこのように言います。「**勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。**」と、主に仕えることにおいて勤勉であれと言うのです。救われたクリスチャンはそのような心の態度をもって主に仕えて行くことが大切なのです。そのことをパウロが教え、ペテロがここで教えるのです。どんなときにも熱心に勤勉に主に仕えなさいと。なんとなく無駄に時間を過ごしてはならないということです。神がくださった今日という日を一生懸命生きなさいと。

7節の後半に「**加えなさい**」ということばが出てきます。これも原語を見ると、先ほどの「用いて」という動詞の後にこの「加えなさい」という動詞が続いているのです。そして、「加えなさい」は命令です。このことばは名詞の「コレゴス」というギリシャ語からきています。「コレゴス」とは歌舞団の指揮者を指すことばです。歌って舞う、そのような団体の指揮者です。また同時に、歌舞団を組織しそれに必要な備えをする人という意味ももったことばです。もう少し、説明を加えると、ギリシャにはたくさん劇作家たちがいましたが、彼らが自分の作品を上演するためには大金が必要でした。上演のためには多くのスタッフを集め訓練する指揮者が必要でした。この指揮者にお金がかかったのです。そのようにして様々な劇が上演されてきたのです。アテネには自分たちの費用でそれらの責任を引き受ける市民が存在しました。大金がかかるけれど我々の町のためだからと、大金を投げ出す市民がいたのです。このように自腹を切って責任を引き受ける人々のことを、同じように「コレゴス」と呼んでいたのです。このことばにはその当時のこのような歴史的な背景があるのです。

ですから、5～7節のみことばをもう一度見たとき、「熱心、真剣」という名詞があつて、「あらゆる」という形容詞がついて、「用いて」という動詞があつて、「加えなさい」という動詞が続いています。敢えて、ペテロがこのような並べ方にしたのは、彼が人々にこのように伝えたかったからです。それは、「あらゆる努力をはらって、一生懸命熱心に真剣に、自分から進んでこの責任を取るように」ということです。霊的成長という大切な責任を自分自身が進んで果たします、引き受けます！ということです。私たちの問題は、霊的成長は自分と関係ないこと、神が成長させてくださるからと思ってしまうことです。これでは何も変わらないのです。信仰生活が長くてもその信仰が変わって来ないのは、礼拝に来てただ座っているだけで、自分で自分の責任を果たそうとしないからです。何も起こらないのです。みことばを見たとき、成長させてくださるのは神ですが、同時に、私たち一人一人救われた者たちには、神の前にどのように生きて行くのかという責任があるのです。神が望まれるように生きて行くことが私たちが成長して行くための秘訣なのです。それをペテロは教えようとしたのです。その前に彼が読者たちに言ったことは、大切な責任があるのだから、それを喜んで引き受けるように、その決心をすることが必要なのだということです。

真剣に、熱心に求める七つのこと、それが5節から記されています。

1) 徳

「**信仰には徳を**」とあります。まず、私たちが熱心に求め続けてゆくものは「徳」だと言います。これは道徳的に成長するという意味です。道徳的に優れた者となることをペテロは言っています。同じペテロ第二の1：3には「**というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、…**」とあります。この「徳」というのはだれかのご性質であることを明らかにしています。イエスご自身です。つまり、私たちイエスを信じた者たちは、この主のご性質が私たちを通してますます明らかにされて行くように努めて行くことが必要だということです。神は私たちを新しく生まれ変わらせて聖い者にしてくださった、罪を完全に赦してくださった、そして、聖霊なる神はこのみことばを通して私たちを変え続けてくださるのです。同時に、私たちは自分が聖くなって行くために、道徳的に正しい者になって行くために努力しなければならないのです。たとえば、私たちはいろいろなことに誘惑されます。負けて行きます。アルコールであったり、タバコであったり、ポルノであったり、そのようなものの奴隷になっている人がいます。それがなくてはやって行けないと。しかし、考えなければいけません。そのようなことが果たして神の栄光を現わすことなのかです。神よ、助けてくださいといいながら、その心の中では自分の望むことをしようと決めている、誘惑とはそういうものです。もし、そのよ

うなことに負けまいとするなら、それらから離れることです。神のみこころに反することなら、神が留めてくれるでしょうと、そのように神を試みてはならないのです。どうして私たちが罪を犯すのか、それは私たち自身が罪を犯したいからです。神が罪を犯させるのではありません。私たちがそのように選択するからです。全部の責任は私たちにあるのです。私たちの責任は、私たちを誘惑するものから離れて行くことです。それらに近づかないことです。そのような努力をしなければ私たちはいつまでたっても誘惑に負かれて行きます。ペテロが私たちに教えること、それは道徳的に優れた者となるために私たちには大きな責任がある、誘惑するもの、惑わすものから私たち自身が離れて行かなければならないということです。罪から離れることです。それしか勝利の方法はありません。そして神の助けをいただくのです。私たちが変わって行くためには、自らの働きと神の助けとがともに働く必要があるのです。

「信仰には徳を」とありますが、日本には「徳を積む」ということばがあります。徳を積むことで神の祝福をいただいたり、徳を積むことで天国に入れたり、そのようなことをペテロがクリスチャンに勧めたのではありません。なぜなら、信仰には徳を加えなさいと言っているからです。ペテロは、まず「信仰」から始まるというのです。確かに、私たちの周りには道徳的に素晴らしい人はたくさんいるでしょう。しかし、ペテロがここで言うのは、私たちが徳を積むことによって救いにあずかるということではなく、まず、イエスを信じる信仰があつてその次です。信仰を得るための手段ではありません。なぜ、私たちはイエスを信じた者として道徳的な正しさを求めて生きて行こうとするのか、それは、それによって神が喜んでくださるためです。これが目的なのです。そして、これが世の中で徳を積む人との違いなのです。世の中には立派な人と呼ばれ、尊敬される人たちがいます。しかし、その人たちは正しく生きることによって創造主なる神に栄光を帰そうとしているかということ、そうではありません。私たちが神の前に徳を積んでゆく、道徳的に正しくなっていくのは、自分が誉められるためではありません。私たちを変えてくださっている神が誉め称えられるためです。イエスを信じて救われた私たちは、主の栄光が現わされて行くために、主が喜んでくださるために、道徳的に正しく歩み続けて行きなさい、そのためにはあなたの努力が必要だとペテロは教えるのです。

2) 知識

「**徳には知識を、**」とあります。この「知識」とは識別力を指しています。ペテロは「識別力を磨いて行きなさい」と教えるのです。つまり、日々の生活において、何が神の前に正しく、何が間違っているのかを見極めるようになりなさい、と言っているのです。神の前に正しく歩んで行こうとする人、その人は自分の行ないが少しでも神を悲しませることがあつてはならないと細心の注意を払います。そのような人々はいつも神のみこころに従って行こうと考えて生きています。ヨハネ7：17でイエスはこのように言われています。「**だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。**」と。イエスが言われることは、もしだれかが神のみこころを行なおうと心から願っているなら、その人はイエスが語っていることが神からのものなのか、そうでないのかが明らかになるということです。その識別力をもつことができるということです。では、私たちの生活において神のみこころを行なうために何が必要でしょうか？みことばです。私たちは神のみこころを行おうとするなら、必ず自分のしようとすることをみことばに照らし合わせなければなりません。悲しいことは、私たちは自分のしたいことをみことばにしたいのです。だから、自分の考えていること、しようとすることをサポートしてくれるみことばを捜します。しかも、それは前後関係を見無視してそのことばだけを選んできて、神がこう言っている、だからこれがみこころだと言います。神のみこころを求めてそれに従って行こうとするなら、自分の考えではなく神の望んでいることをしようとするわけですから、神のおことばに語っていただくのです。正しくみことばを見、正しくそれを理解し、それに従って行こうとします。それがみこころに従って行くことです。だから、そのように考えている人たちはイエスの語ったことが神のみことばに一致しているかどうか分かるのです。私たちの兄弟姉妹の間でも、語っていることがみこころに沿っているものかどうかを判断することは簡単です。それが聖書に一致しているかどうかです。私たちが何が正しくて何が間違っているのかを判断して、いつも神のみこころに従って行こうとするためには、この聖書のみことばをしっかりと蓄え、それに立つことが必要です。みことばを知ることは神を知ることです。神を知れば知るほど、その神の前にどう生きるかが問われ、聖く生きて行こうとします。そして、神に喜ばれることを常に願うゆえに、自分の考えること、しようとするものが神の前に正しいかどうかみことばを見るのです。そして、みことばが教えることを選択して行きます。そのようにして私たちは自分の識別力を磨いて行くのです。その努力をしまさいとペテロは言うのです。

3) 自制

自分の願望や願いをコントロールすることです。これは先の識別力を磨くことと関連しています。6節「**知識には自制を、**」。私たちは本質的に自分のやりたいことをしたいのです。だから、私たちが考えな

ければならないのは、それが神の前に正しいのかどうかです。

今日、私たちが学んだこと、私たちが覚えるべきことは、私の信仰生活において、私は大きな責任を持っているということです。私の信仰の成長は私自身に責任があるのです。私たちが常にすべきことは、いつも神の力を仰ぐことです。神の助け、神の知恵がいつも必要だからです。そして同時に、私たちがすべきことをその力をいただきながら為して行くことです。道徳的に聖くあれ、いつも何が神の前に正しくて完全であるのかを考えてそれを選択しなさい、そのために熱心に真剣に努力を重ねて行きなさい、そうすることによってあなたは変わってくるから、あなたは成長するから、そして、あなたを成長させてくださっている神が誉め称えられて行くのです。クリスチャンには大きな責任があります。信仰の成長を他人任せにしてはならないのです。どうぞ、それぞれの責任を果たしてください。そのとき、神はあなたを変えて行ってくださるのです。